

## 令和2年度 第2回 清瀬市男女共同参画センター運営委員会 議事録

日時:令和3年3月25日(木) 午前10時~12時

会場:男女共同参画センター 会議室

委員出席:6名

桑山委員長、菊池委員、木村委員、池田委員、今村委員、田村委員

委員欠席:6名

吉川委員、小野委員、松山委員、土屋委員、渡邊委員、上木原委員

事務局:原口センター長、高田係長、福田支援員

### センター長より挨拶

コロナ禍の影響で今年度の事業については中止、縮小になったものが多い。しかし、その中で当部署においては十二分な対策をとりつつ実施できたものもある。本日は今年度、実施事業の報告と来年度の予定についてのご意見をいただく。

### 議題

【平成2年4月から令和3年3月までの事業報告】

事務局より内容説明を行った。事務報告参照

【令和3年4月からの事業予定】

事務局より内容説明を行った。事務報告参照

### 委員長

運営委員会が二回開催できた。分科会もLGBTQの方たちへの取り組みも活発化している。マイノリティへの取り組みは続けていきたい。DV相談の件数が前年より減っていることについて説明を求める。

### センター長

DV相談について件数が前年度比で減少している。この件数はのべの数字だ。国の分析ではコロナ期で自宅に配偶者がいることで件数が増加する見込みが出ているが多摩地区の課長会では件数について同数もしくは減少しているとの報告があった。だからといってDV全体の件数が減っているとは思わない。国もDV被害の増加を見込んで手厚い対策を講じている。そちらに流れたのではないか。緊急事態宣言の出た令和2年の4月、5月の電話受付のDV相談は0件であった。加害者が在宅のため電話不可能であったことが推測される。もし当センターの受付方法が改善され、それが件数増加につながるのであれば方法を模索していき

たい。また GW 等、大型連休の前には国の制度周知をホームページ等で再度行い被害者が困ることが無いように対策を講じた。図書館に DV 相談のパンフレットを設置した。

#### 委員長

被害者につながる広報を工夫して欲しい。

#### センター長

休館時も当センターは相談業務を継続していた。

#### 委員

今年度から二つの分科会ができたがメンバーは任意で参加になっている。子どものためのガイドブックの検討グループも形にはなってきたが更に作業を加速させるために有識者について参加を打診できないか。DV相談の件だが当事者が地元で相談をするのは難しいので国や都の制度周知は重要である。センターが広報に力を入れていることが理解できた。相談者が安心して利用できるような配慮をお願いしたい。

#### 委員

相談事業等について保育の利用は可能か。

#### センター長

可能である。相談依頼時に確認して必要であれば手配している。前日まで対応している。

#### 委員

今年度は実現できなかったがサポーター、登録団体の交流会については重要である。コロナ禍で特に団体同士の交流が難しい状況ではあるが互いの活動を理解し合う意味でも開催してもらいたい。

#### 【コワーキングスペース運営事業について】

事務局より内容説明を行った。

#### 委員長

清瀬でも設置されるのはありがたい。

## 委員

アイレックの事業とするならば女性起業家のネットワークにも声を掛けイベント参加のみならず事業としての活動に結びつけるような工夫を仕掛けて欲しい。待ちの姿勢でなく働きかけていくようにすべきだ。就業支援も視野に入れコーディネーション機能も追及して欲しい。

## センター長

交付金を原資に三年間の調査活動等を経て満を持した形で事業化に至った。メインとしては女性の起業家に向けたコワーキングスペースという方向だ。コロナ禍でテレワークの必要性も加わった形だ。複合的な機能を持たせて運営経験のある業者をプロポーザル方式で選定をしていく。ネットワーキングについてもお任せできる業者を選定する予定だ。選定委員会についても要綱を定めている。

## 【分科会活動報告】

委員長より委員を指名して分科会の活動について説明を行った。

## センター長

パートナーシップ制度検討も子どものためのガイドブック改訂も市の重要施策という認識だ。市民と共に取り組むことによってさまざまな発想を取り込むことが出来る。枠組みや構成員については検討の余地もあるが最終的な判断には加わってもらうような仕組みは考える。

## 委員

二つのテーマについて分科会で活発な議論がされているのはありがたい。ただ所掌事務の問題で最終決定まで分科会で行うことはなく別の母体を作る必要がある。運営委員会がそのグループから報告を受けるというやり方もあるのではないか。

## 【予算について】

センター長より予算の内容説明を行った。

## センター長

アイレックまつりは中止になったがギャラリーを借りてパネルの展示を行った。今まで、こういう形では展示を行ったことはなかったが好評であった。方向を変えているいろいろな活動を行ったことに感謝する。

## 委員

アイレックの認知度をあげることに役立ったと思われる。

## センター長

サポーター活動室について利用を登録団体にも開放して欲しいとの要望があった。コロナ対策で交流コーナーの椅子を間引いている関係で一机あたり最大3人の利用しかできない。活動室であれば5、6人の話ができそうだが、もともとサポーター専用の部屋なので、今後アイレックの施設としての使い方としても考え方を改めてみる必要があるのではないか。

## 委員長

せっかく活動室が空いているのであれば登録団体の使用を認めるのは構わないのではないか。

## センター長

時間制限、人数制限は事務局で案を考える。コロナ対策を考えると5人程度で一時間ぐらいが適当か。原案を事務局で作成し委員長、副委員長に諮る。これについてはコロナ期の特例としたい。

## 事務局

委員からコロナ期においてオンラインの活用を積極的にしてはという提案があった。講座等での活用は始まっている。打ち合わせでの活用も行われている。令和3年度の事業についても場合に応じて積極的に活用していきたい。